

宮崎兄弟資料館だより

第13号 2022/3/31

2年ぶりの牡丹茶会 日中の両文化を楽しむ

新型コロナウイルスの感染拡大により令和2年は中止となった「宮崎兄弟の生家 牡丹茶会」。令和3年は新たに地元の荒尾海陽中学校・茶道部の皆様の協力を得て、うららかな春の陽気の中、牡丹茶会を開催することが出来ました。2年ぶりの牡丹茶会には朝早くから多くの方が参加くださり、開始わずか一時間半で予定の50杯が終了してしまう盛況ぶりでした。

また、今回は熊本県日中友好協会の協力を得て、王怡(ワン・イ)さんによる二胡の生演奏も急ぎょ実現。日本にも馴染みのある曲が演奏されると、参加者の方々は赤や白、ピンクの牡丹を眺めながら、二胡の素敵な音色に耳を傾け、美味しいお抹茶を一口と、ゆっくりとしたひと時を過ごされていました。



▲荒尾海陽中の茶道部の皆様によるお呈茶に、参加者の皆様も舌鼓♪



▲王さんによる二胡の演奏が日本の伝統家屋の生家に響き、日中の両文化を楽しむことができました

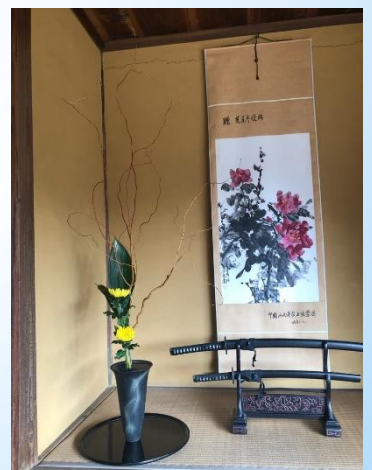
伝統文化で心にひと時の安らぎ 「いけばなでおもてなし」

2年続けて中止を余儀なくされた「宮崎兄弟の生家 いけばな展」でしたが、ウィズコロナの中でも宮崎兄弟の生家を訪れる方々の心の安らぎになればとの思いから、荒尾華道会の会員の皆様の協力を得て、月に2回、季節の花材を用いた作品を展示していただきました。

いけばな作品が展示された生家の床の間は、掛け軸と一体となって宮崎家の仏間の格式の高さを際立たせ、かつてその身を追われた孫文がひと時この荒尾でもてなしを受けたその情景をより一層リアルに思い起こさせます。来館者からは、「晴れやかな気持ちになる」「床の間に彩が添えられて綺麗」などの感想をいただくことができました。



▲いつもより滔天と孫文の筆談も進みそう!?



▲キリリと引き締まった生家の床の間

「日中友好の朝顔」 小中学校で国を超えた歴史を伝える

平成29年度より、荒尾市では「日中友好の朝顔」を育てる取組みを市内の小中学校で実施していただいています。本市の子どもたちに幼いころから「国を超えた友情の歴史」に触れてもらおうというもので、令和3年度は市内12校に取り組んでもらいましたので、その成果をご紹介します。

一小

1年生のみなさんが宮崎兄弟と孫文の関係や、日中友好の朝顔の種まきをする目的を学んだうえで、育ててくれました！



種まき



草取り



観察



開花！

万田小

栽培飼育委員会のみなさんが育ててくれました！作業中には、宮崎兄弟の功績などについて話しながら、当時に思いを馳せていただいたとか...生家と同じ鮮やかなピンク色の朝顔が咲いてくれました。



府本小

日中友好の朝顔の意味について先生から2年生の皆さんに説明してもらい、学校玄関脇にプランターで育ててもらいました。



「日中友好の朝顔」とは



清王朝の末裔である愛新覚羅(あいしんかくら)溥傑(ふけつ)・浩(ひろ)夫妻が北京のご自宅にて大切に育てたと言われる朝顔。この二人は政略結婚ではありましたが、とても仲が良く、時代に翻弄されながらも日中の懸け橋として活動しつづけました。その二人が育てた朝顔の種を、娘の福永嫄生(こせい)様から神戸の孫文記念館へ、そして宮崎兄弟の生家施設へと分けていただいたものです。毎年白覆輪の入った鮮やかなピンクの花を咲かせ、生家を訪れる人の目を楽しませています。

平井小

1年生のみなさんと用務員さんが観察やグリーンカーテンとして活用するため育ててくれました！



八幡小

4年生のみなさんが、自分の植木鉢に種をまいて育ててくれました。植木鉢は玄関横に並べられ、来校された方たちに見ていただけるようにしてくれたそうです。また、5年生の理科「植物の実や種子のつき方」の教材としても活用していただきました！



玄関脇にて



花のつくりや花粉の観察
受粉実験に！

有明小

八幡小と同じく、5年生の理科の学習で活用していただきました！5年生のみなさんに種まき、育苗、水やりをしてもらいました。ピンクだけでなく、紫っぽい朝顔も...これも教材になりそうです！



中央小

八幡小、有明小と同じく、5年生の理科の朝顔の観察で活用してもらいました。



緑ヶ丘小

栽培委員会
のみなさんにお世話を
してもらい、大きく
広がって育ってくれ
ました！



海陽中

生徒会執行部の生徒のみなさんに、特別教室棟のベランダにネットを張って育ててもらいました。



桜山小

環境飼育委員会
のみなさんと先生が
プランターにて育て
てくれました。また、
リモートに

よる全校集会で、
委員会から全校児童
に紹介してくれた
そうです！



三中

生徒会役員
のみなさんが
学校正門脇に
植えて育て
てくれました。
薄紫色の花
が咲いた
そうです。



四中

生徒のみなさんが水やり
してくれたおかげで、
7月中旬には花が咲き
始め、プランターの
支柱全体を覆うほど
に蔓が伸びたとのこと！
葉の大きさや枚数も
増え、青々とした
様子を見ることが
できたそうです。



・頭山満・徳富蘇峰・中野正剛の掛け軸を寄贈いただきました

荒尾市内在住の方より宮崎兄弟にゆかりのある人物の史料・掛け軸3点を寄贈いただきました。徳富蘇峰は明治から昭和にかけて活躍したジャーナリストとして有名で、彼が設立した大江義塾には滔天も一時期通いました。掛け軸には「億兆同心靖國難（億兆同心にして国難を靖んずる）」と、「万民が心を一にして国を安らかにする」ということを意味するもので、内容から1930年代頃のものとして推定されます。

頭山満は玄洋社の一員で、政界にも財界にも属さないもののその影響力は大きく、民蔵も滔天も交流し物心両面で協力してもらっていました。掛け軸は「斬春風（春風を斬る）」。書かれた時期は不明ですが、「春の強い風邪を斬るくらいの勢い」を表したものと推測されます。中野正剛は、滔天家の書生をしていた長江清介という早大生を通じて滔天と交流するようになり、後には彼が創設した東方会に滔天の息子・龍介が入会している。彼の掛け軸は「青山萬里 一孤舟（青山萬里 一孤の舟）」で書かれた時期は後半生と推測される。意味は、「青山（死地）までの遠い道のりを、一人舟で行く」というもので、一人でも突き進むという覚悟を詠んだのだと考えられます。これらの掛け軸は一部損傷が激しいため、今後、企画展等を通じて公開の機会を作りたく考えています。

・9月 牡丹を寄贈いただきました

長洲にお住まいの方より、宮崎兄弟の生家施設の庭の古い牡丹と同種の牡丹を寄贈いただきました。生家の牡丹園は、滔天がかつて中国から持ち帰り庭に植えたことに由来するもので、一番古い株は五～六十年と推定されています。今回寄贈いただいた牡丹は移植したばかりのため、一年目は花を咲かせずに株自体に栄養がいくように管理していく予定ですが、すでに芽が出ており、生家の牡丹園に無事活着してくれたようです。来年以後の開花をぜひ楽しみにしてください。

・2月 野点傘を寄贈いただきました

開館当初からの恒例イベントとなっている牡丹茶会に長年協力して下さった堀田先生のご家族より野点傘を寄贈いただきました。当イベントは現在、地元の海陽中学校の茶道部の皆様にご協力いただいて開催しており、早速令和4年度より活用させていただく予定です。一層雰囲気が増したお茶会をどうぞお楽しみに。

中山義弘
『近代の日本人と孫文』
(2016年、汲古書院)

宮崎滔天をはじめとする孫文に関わりのある人物等、近代の日本人が、孫文とその思想をどのように認識・理解し、そして中国を認識したか、さらにそこから日本人が日本、中国、アジア、世界をどのように問い、自己の思想を構想し、行動したかが考察される。滔天を取り巻く人々、それぞれの思想と行動について知ることができるとともに、筆者が言うように「中国の様々なこと、アジアの様々なこと、さらには世界の様々なことを考える」きっかけを与えてくれる一書であり、宮崎資料館の見学とともにぜひ一読してほしい。



宮崎兄弟の生家スケジュール（令和4年度）

・牡丹茶会（4月10日、お呈茶：荒尾海陽中学校 茶道部）

※3月末～4月上旬頃、牡丹開花

・初夏のいけばな展（5月21～22日）

※5月末～6月頭 菩提樹開花

※お盆開館（8月10日）

・音と光の祭典（9月24日）

・JR九州ウォーキング（11月3日）

・滔天忌俳句大会（12月6日）

・文化財防火デー「防火訓練」（1月26日）

※イベント詳細は宮崎兄弟資料館HPをご覧ください。

※開花時期については、前後することがございます。詳細については荒尾市文化企画課（☎0968-63-1274）までお問合せください。

～次号予告～

次回の「宮崎兄弟資料館・館報」14号は、2023（令和5）年3月に発行予定です。

掲載内容についてご意見・ご要望があれば、下記メールアドレスまでお寄せください。

E-mail : culture@city.arao.lg.jp（荒尾市文化企画課 世界遺産・文化交流室）